

# I 国語 言葉をよりすぐって俳句を作ろう（1組）

## 1 学習の概要

本年度より、本校ではアクティブ・ラーニングを取り入れた学習活動を推進しています。アクティブ・ラーニングとは、「自ら課題を見つけ、学び合いを通して課題解決を図る」学習活動です。それは、知識の習得に留まらず、身につけた知識を活用し、課題を解決したり、学びを深めたりすることを目指しています。昨年度の学校生活アンケートでは、「すすんで発表する」との問いに「よく」「まあまあ」と肯定的に回答した子どもが50%でした。低学年では6割以上いますが、高学年にいくほど低下する傾向があります。発表してなくても、意欲的に学習に取り組んでいる子どももいますが、これは高い数字とは言えません。アクティブ・ラーニングを取り入れることで、意欲の高まりも目指して、授業に取り組みました。

ここでは、学び合いの基礎となる活動「わくわくトーク」と国語「言葉をよりすぐって俳句を作ろう」での話し合い活動について紹介します

## 2 ねらい

- わくわくトークの活動を通して、楽しみながら話したり聞いたりすることができる。
- 目的を明確にした話し合い活動を取り入れることで、学び合うことの良さを実感し、進んで学び合うことができる。

## 3 取り組み

### (1) わくわくトーク

本年度より、水・木の朝学習の時間を「わくわくトーク」として、クラスで話す・聞く活動を行っています。初めは教師が「好きな食べ物とその理由」などのテーマを決めて、発表していました。次第に「次のテーマは何?」「質問がしたい」など子どもから意見が出てきました。2学期には、テーマ自体もわくわくトークで話し合い、子ども達が決めることになりました。発表の順番は自由起立として、話したいときに立って話をする事、同時に数人立ったら譲り合うことをルールとしました。こうすることで自主的な参加態度を育てたいと考えました。

3学期はグループでの話し合いを中心に行っています。1月のある週のテーマは「桃太郎2017」として、1文ずつ物語を考え、できた話を発表しました。

### (2) 国語「言葉をよりすぐって俳句を作ろう」

本単元は、俳句について知り、生活の中で気づいたことなどを表現を工夫しながら俳句にして伝える活動です。

僕の好きな食べ物は・・・



「みんなで話を聞く様子」



「むかし、むかし・・・」

#### ① 話し合う必然性のある課題設定

「話し合いたい」と思えば、活発に活動します。そこで、身近にある俳句の例にお茶のペットボトルに俳句が書かれていることを教え、その飲料会社が俳句のコンクールを行っていることを伝えました。子どもからは、「応募してみたい」との声が上がり、学んだことを生かして俳句を作り、コンクールに出品することを単元の目標としました。

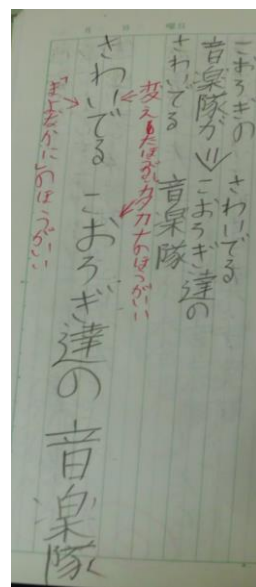
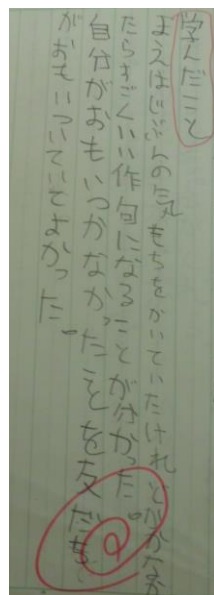


【グループで話し合う様子】

#### ② グループでの話し合い

まず、俳句のきまりや表現の工夫（言葉の順序を工夫する・別の言葉に置き換える）について全体で学習し、それぞれに俳句を考えました。そして、俳句をグループで読み合い、アドバイスし合いました。それまでに学習した俳句をよりよくする工夫をもとにアドバイスを考えさせました。ただ、アドバイスだけでは、自分の俳句を批判されているように感じることもあるので、まず、相手の俳句のよい点を伝えた後で、アドバイスし合うようにしました。

その結果、右の写真のノートでは「さわいでる こおろぎ達の 音楽隊」がグループのアドバイスを受けて、「真夜中に コオロギ達の 音楽隊」と表現がより工夫された俳句になりました。表現の工夫に1つの正解はないのですが、子ども達はアドバイスをしてもらったことで、自分の俳句がよりよいものになったと実感することができました。ある子どもの感想には、「もうやりなおすことはないと思ったけど、みんなの意見を聞いてとっても参考になった。」と書いてありました。



【話し合い後の子どものノート】

## 4 成果と課題

5月と12月に児童に行ったアンケート結果として、以下のような結果が得られました。

(◎そう思う・○まあそう思う・△あまり思わない・×全く思わないの4つから選択)

- ・「みんなと一緒に勉強することは楽しい」

「そう思う」と答えた児童が30%から39%に増えました。(○を含むと86%)

- ・「手を挙げて発言することができる」

「そう思う」と答えた児童が23%から39%に増えました。(○を含むと64%)

しかし、子どもの実態に合った課題を適切に設定することは難しく、様々なアイデアを準備することや、継続的で計画的な学習活動を行えるよう、指導の改善を図っていきたいと思います。